

【国語科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- 書くことについては、ノート指導をICT機器を活用しながら低学年から丁寧に指導し、継続的に指導者が添削したり評価したりすることで、意欲が高まり、分かりやすく書いたり、自分の考えをまとめたりすることのできる児童が増えた。
- 読むことについては、音読や読書、読み聞かせなどを継続的に行うことで、物語や小説などの読み物を読むことに児童の意欲が高まった。また、説明的文章の要点を押さえたり、要旨を100から150字程度にまとめたりする学習に取り組み、事実と自分の考えを区別しながら書く力を高めることができた。
- △話すこと・聞くことについては、相手の話を聞き、中心や意図を捉えながら聞くことはできるが、グループや学級全体の話し合う活動において、自分の立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合うには、個人差が多く、課題がある。

2 今年度の調査結果の分析と結果に基づく課題

	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
調査結果の分析	国語への関心・意欲・態度は、目標値を平均12.1P上回っている。特に、5・6年は、かなり高い数値を示しており、国語への関心・意欲・態度が高いことが分かる。	話す・聞く能力は、3学年全てで目標値を上回っており、平均で9.7P上回った。学年によっては、前年度より下回り、他の能力に比べると高まり率は低い。	書く能力は、どの学年も目標値を上回っており、3学年平均で14.6P上がっている。6年は、前年度の校内平均正答率より平均4.7P上回っている。	読む能力は、どの学年も目標値を上回っており、3学年平均で15.8P上がっている。6年は、前年度の校内平均正答率より平均4.9P上回っている。	言語についての知識・理解・技能は、どの学年も目標値を上回っており、3学年平均で13.8P上がっている。学年が上がるにつれ、数値の高まり、6年は、21P上回り、習熟を高めていることが分かる。
課題	話す・聞く能力に関しては、話の中心に気を付け、話し手の意図を考えながら聞くことは、おおむねできる。さらに、自分の立場や意図を明らかにしながら計画的に話し合う力を付けるために、話し合う活動を通して、感想や意見などを区別しながら聞いたり、自分の考えをまとめた上で意見を交換したりするような実践の場を多く取り入れるようにする必要がある。				

3 授業の具体的な改善策

目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。特に、日常生活における人との関わりの中で、伝え合う力を高め、思考力・想像力を養うことを重点とする。
全体	<ul style="list-style-type: none"> 音声言語の教材を活用したり教師が文章を読んだりして、それを聞き取り、メモをする練習をする。実際の場面で主体的に聞く練習をし、聞いたことをまとめたり、それに対する自分の考えを書くという時間を設定したりする。 互いの考えの共通点や相違点を考えながら聞いたり話したりする力や、自分の立場や意図をはっきりさせながら話し合う力を身に付けさせることを意識させる。グループや学級全体で話し合う活動を意図的に設定し、コミュニケーション力の向上を図る。
	学年段階別改善策
低学年	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達の話をしっかり聞くことができるようにする（他学年でも同様）。また、話をするときには「いつ、どこで、誰が、何を、どうした」を意識させ、自分の身の回りの出来事を伝えられるようにする。 話す・聞く活動を日常の学校生活の中に取り入れ、定着を図る。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会にスピーチタイムを設ける。事前にスピーチ原稿を書かせて、話の中心が聞き手に伝わるようにするとともに、聞く側も相手の話の中心を聞き取ることをめあてに聞く。（聞いた後に質問をしたり、感想を言い合ったりする。） 話し手への質問や感想を述べる機会を設け、「話を聞いてもらえた。」「聞いて楽しかった。」と互いに喜び合える活動を取り入れる。 教師の話聞き取ってメモをする練習をする。聞いたことをまとめ、文章にできるようにする。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> 校長先生や先生、友達のスピーチした内容を聞き、まとめたり自己の意見を書いたりする。 互いの考えを伝え合うために、自分の立場をはっきりさせ、自分の考えと比較しながら（共通点や相違点、関連して考えたことを整理して）聞いたり、相手の話したことを受けて、自分の考えを話したりすることができるようにする。